

ささ郷だより

この度の東日本大震災では、皆様のご家族、ご親戚、ご友人にお変わりございませんでしょうか。被災された方をお持ちの皆様には、謹んでお見舞い申し上げます。

トピックス

ナチュラルスイーツぽんぽん

この度、笹川に【ナチュラルスイーツぽんぽん】と言う“シフォンケーキとおやつのお店”が開店(4月26日)しました。

店主は、屋号【佐久栄さ】の由香里さんです。これまで「なないろ朝市」に出店されており好評を得ていました。自然豊かな溪流の里でのお菓子は、笹川の名物・特産品になればと期待されています。



販売品目
★毎日(数に限りがあります。)
・シフォンケーキ・チーズケーキ・スコーン
などの焼き菓子



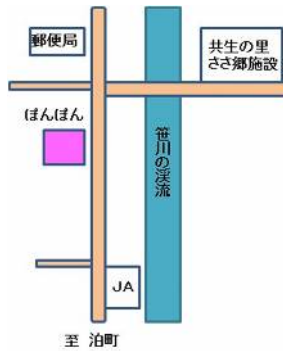
★販売予定の食品
・「金森食品」さんの厚揚げ もめん豆腐、豆乳など
・糸糸川で大人気の「比津さん」の手作りこんにやく、沸け物など
・旧サンロード内で販売された「ポエム」さんのおいしい食パン

☆喫茶も併用されております。
・ケーキセット シフォンケーキ十お飲物
・トーストセット 厚切りトースト十お飲物+ミニサラダ 各 ¥500～



営業時間
10:00～18:00
(しばらくの間
10:00～15:00)
定休日
日曜日、月曜日
(日曜日は、
なないろ朝市に
出店)

帰省の折りには是非、お立ち寄り下さい。



新しく転入され方

谷口 浩 様
転入日 2011年4月1日
家族 夫婦、小1男子
住居 元 宗右衛門宅 (中央町内会)

竹内 弘 様
転入日 2011年2月1日 Uターン
家族 当面単身
住居 自宅 徳左衛門アライ (中央町内会)

ヨシエばあちゃんの絵仕事展

朝日町立ふるさと美術館にて
2011年 4月23日(土)～6月5日(日)



伊左衛門(いざいんさ)の竹内ヨシエさんは大正9年生まれ。昔から絵を描く事が大好きだった。幼い頃は父の勤務先であった富山市で過ごした。太平洋戦争の戦火が激しくなると共に、朝日町に戻ったヨシエさんは、戦時下の重苦しい雰囲気からは一転、故郷の美しさに驚いたという。海・山・川、殊に暗く短いトンネルを抜けた瞬間、目の前に広がる豊かな自然に恵まれた桃源郷。日々畑仕事に精を出す中、自らを包み込んでくれるこの絶景を「いつかはキャンパスに残したい。」そう想いを膨らませていたが、なかなか形に出来ずに時が過ぎていった。60歳を過ぎた頃、偶然【墨絵教室生徒募集】の文字が目にと留まる。「絵を描きたい。」募る想いが行動に移る瞬間だった。最初の5年間は、町の日本画家長崎助之丞氏について墨絵を習った。多くは語らない先生だったが、描く姿を見ながら一生懸命その画法を学んだ。春夏秋冬、ふるさと笹川の風景を何度も描き、少しずつ自分のものにしていった。



墨絵を描き始めて5年、水彩や油彩にも興味が湧いてきた。鮮やかな色彩で四季を表現することは、墨絵とはまた違い、面白くもあり、難しくもあり。現在も師と慕う湯口敏明氏のもと、その魅力にどんどん引き込まれていった。

心躍る風景があれば、一輪車に画材道具を乗せ、一人山中へ向かう程の熱の入り様であった。一心に描き続けて30年。5月5日で91歳になる。風景・静物・人物・花...膨大な数の作品が出来上がった。これこそ、ヨシエばあちゃんの「絵仕事」そのものである。



墨絵からは、一本筋の通ったヨシエさんの芯の太さを感じられる。水彩からは、柔和な色彩が織りなす独特の空気感を感じられる。油彩からは、作品へ命を吹き込もうとする意志の強さを感じられる。

描かれた山景からは、晴嵐が立ち上り、笹川の清流からはマイナスイオンが滲み出るかのように、飾られた空間には「癒しの風」が静かに流れる。

趣味に年齢は関係ない。新しく湧き上がる興味が尽きることもない。描きたい風景、行ってみたい場所はまだまだたくさんあるという。この先何を吸収して、どんな絵描きになるのか。今後ますます楽しみだ。



平成23年度 笹川自治振興会定期総会 報告

去る4月3日に笹川では新年度の事業などを決める総会が開かれ、ふるさと体験IN【ささ郷】事業と笹川特産品振興事業が新しく決まりました。

これらの目的は、

- ・ふるさとの山や川に人が集まり、又盆暮れの伝統行事などが進展し賑わいと楽しさが衆目を集め、交流人口などの増加してはリターンなど転入者に繋がればと期待される。
- ・自然に親しむ生活と伝統文化の継承により地域の誇りを取り戻すことが活性化の基本となる。とのことです。

また、笹川特産品振興事業では、「地区の農産品の作り手が高齢化で減少していく状況に少しでも歯止めを掛け、新産品の開発にも取り組むなどグループ活動の意欲の向上に繋がる」としており、東京笹川会の皆様のご参加など心待ちにしているとのことです。

★事業の紹介(抜粋)★

1. ふるさと体験IN【ささ郷】事業

- 1.1 PR(東京) (5月下旬)
東京笹川会総会・懇親会に参加しPRなど

- 1.2 パンプ類作成 (6月上旬)
地区の歴史・文化・特産品、年間のイベントなど

- 1.3 川遊び・伝統料理 (7月上旬)
都会の中学生日帰り体験
川遊び・畑草むしり・昼食会

- 1.4 秋祭り盆踊り (8月下旬)
伝統芸能継承 帰省客の楽しみ獅子舞

- 1.5 勉強会 (1月上旬)
諏訪神社の由来(木曾義仲)

2. 笹川特産品振興事業

- (1) 各特産品愛好会(研究会)への情報提供
- (2) 特産品の栽培支援やPR活動
- (3) 特産品の直売所の運営やイベントなどの企画

- 3.1 笹川啓翁桜・実バラ研究会
耕作放棄地に試験栽培

- 3.2 笹川稲作グループ
田圃維持、ブランドカアップ

- 3.3 笹川ミョウガ組合
上級品指向、生産者増員

- 3.4 笹川ワサビ組合
静岡産苗仕入れ、丸いも栽培に挑戦

- 3.5 笹川炭焼きグループ
技術継承、白炭に挑戦

一特集 笹川特産品振興事業一

今回の特集に登場する取り組み等は既発行号で既に掲載してきたモノがありますが、左記の通り、笹川自治振興会で笹川特産品振興事業として取り組むことになりました。

そのため内容的に既発行号と重なる部分が多々ありますがご容赦願います。

■ 笹川啓翁桜・実バラ研究会

【啓翁桜】

近年、お正月飾りとして桜の花を見かけるようになっていませんか?この冬に咲く桜、その名を啓翁桜(けいおうざくら)と言い、12月下旬~3月の真冬に咲く桜として注目を集めています。



啓翁桜とは、支那桜桃と彼岸桜を交配してつくられた桜です。実はこの啓翁桜、意外と歴史は古く、江戸城に生花を納めていた花き商が冬に咲かせる手法を編み出したと言われていています。

啓翁桜は、いわゆる一般的な桜と違い太い幹はなく、形の良い枝が何本もまとまって1つの株を形成し、花びらからはさわやかな香りを漂わせます。普通なら3月下旬~4月上旬に開花しますが、気候条件をうまく利用した促成栽培で冬期に開花させるのです



1. 栽培(生産)

- 1.1 これまでの活動内容
平成22年度にふるさと農園に苗床を作り移植済み
- 1.2 新しい取り組み
啓翁桜の施肥

2. 出荷時期

試験栽培中のため未定

【実バラ】

◇色鮮やかな実を觀賞する
色鮮やかで日持ちする赤やだいたい色の実を觀賞する品種で、リースやブーケ、テーブル花などとして重宝されている。

栽培したのはオランダ原産のオータムスプライト、マジカルファンタジーなどの4品種。野バラの一種で、樹高は約1.5メートル。6、7月ごろ茎の先にハマナスのようなピンクの花を咲かせた後、直径1センチ前後の赤い実を20~30個つける。耐寒性が高く、高冷地ほど鮮やかな色の実になる。

ペアーは「実る」、アイは「瞳」という意味。アイは日本語の「愛」にも通じ、「実バラが実ると愛が実る」との意味が込められている。



1. 栽培(生産)

- 1.1 活動内容
2011年4月12日に試験栽培のため植樹

2. 出荷時期

試験栽培中のため未定

■ 笹川稲作グループ

最近の米作り

現在は、機械化が進み、良質の土地と清水の恵みを得て、美味しいお米の収穫ができています。



田圃のまわりに電気柵を設置し、猪等の動物から稲を守っています。

1. 栽培(生産)

- 1.1 これまでの活動内容
田圃維持
こだわりの笹川米
- 1.2 今後の取り組み
人員裾の拡大
ブランドカUP

2. 販売価格

30kg	13,000円
20kg	9,800円
10kg	4,900円

3. ご注文・問い合わせ先

笹川米 稲作グループ
富山県下新川郡朝日町笹川674
TEL 0765(83)1321
竹内 重之
または
TEL 0765(83)9113
折谷 隆三

笹川ワサビ組合

【わさび】

【 笹川の清流で育まれ 辛味と甘みが際立つ笹川わさび 】

ワサビの辛さは？

ワサビの辛味成分は、芥子菜など、アブラナ科の植物が多く含むからし油配糖体(グルコシノレート)の一種のシニグリンが、すりおろされる過程で酸素に触れ、細胞にある酵素と反応することにより生成される**アリルイソチオシアネート**などであり、殺菌効果もあります。

ワサビは根から放出するアリルイソチオシアネートの影響により、ワサビ自身もこの物質によって大きくなれない(自家中毒)特性を持っています。

笹川産のワサビは、水ワサビで、山間部の水路や沢を利用したワサビ田で栽培しており、この栽培方法によりアリルイソチオシアネートが洗い流されるので、大きくなり、さらに辛みが増すとされています。

1. 栽培(生産)

1.1 これまでの活動内容

JAみな穂に出荷
ワサビ漬け安定出荷
葉も引き合い人気あり



1.2 今後の取り組み
ワサビ棚の増強
ワサビ苗購入

2. 出荷時期

わさび漬け 11月～12月
わさび花、葉 4月中旬～5月初旬

【丸いも】

やまのいもの一つで、有名なものとしては、石川県能美市及び小松市板津地区で栽培されているのが「加賀丸いも」があります。

日本料理を始め、高級和菓子の材料、家庭料理の一品として利用され、豊富な栄養を含み、粘りの強いのが特徴です。

健康機能性

丸いもの特徴である粘りはムチン(たんぱく質とマンナンが結合したものを)を含んでいるため、ムチンは胃の粘膜に作用し胃壁を守り、胃潰瘍などの予防にも良いとされ、たんぱく質の吸収を促進するので、一緒に食べたものの消化吸収がよくなり、さらには、滋養強壮にも役立つと言われています。また他にも、サポニンを含んでおり、胃腸の働きを助け、抵抗力や回復力を高める働きがあると言われています。

1. 栽培(生産)

1.1 これまでの活動内容

2011年4月12日に試験栽培として植えた。

2. 出荷時期

試験栽培中のため未定



3. ご注文・問い合わせ先

笹川ワサビ生産組合
富山県下新川郡朝日町笹川644
Tel 0765(83)1122
竹内 淳祐 折谷節子

・わさび漬け



・わさび、わさびの葉、茎レシピ(例)

【わさびのおひたし】

材料 わさび、わさびの葉、茎
作り方

- 1 山葵の茎と葉を2センチくらいに切る。
- 2 根を少量すり下ろす
- 3 茎と葉を熱湯に数秒ひたし水分を切る。
- 4 2と3をタッパ等の密閉できる容器に入れ一晩寝かす
- 5 醤油か麵つゆで味付けする
- 6 そのまま酒の肴、お茶づけまたは熱湯に入れ吸い物にしてください

アドバイス

すり残りのわさびを使える逸品ですね。
密封容器に入れることを忘れずに！

丸いも レシピ(例)

☆とろろ汁

- 1.おろし金ですりおろした丸いもをさらにすり鉢でよくすり、
- 2.煮出し汁を徐々に加えながらよく混ぜて好みの濃さのばします。
- 3.もみのり、さらし葱などをかけ、熱いご飯に添えて召しあがって下さい。



☆お好み焼き

- 1.すりおろした丸いもにとき卵を徐々に混ぜてのばし、さらにスープを少量ずつ入れながらよく混ぜます。
- 2.その中にお好みの肉、キャベツ・葱などの野菜を加え、お好み焼きの要領で焼き上げます。
- 3.ソースで味を整え、花かつお、青のりをふりかけます。



笹川炭焼きグループ



1. 栽培(生産)方針

1.1 これまでの活動内容

一号窯(三峯)の完成から約9年、昨年7月に二号窯がはたる公園に完成。昨年の生産量は、5窯(1窯 240Kg～250Kg)

1.2 今後の取り組み

白炭に挑戦
技術伝承

2. 出荷時期

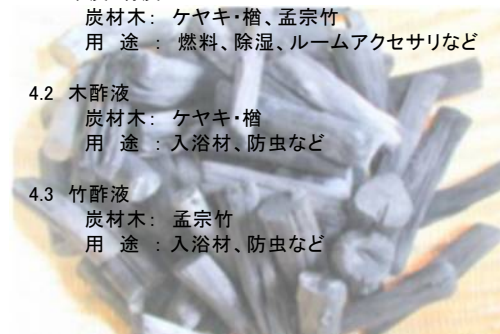
窯だしに併せて(年5回ほど)

3. ご注文・問い合わせ先

笹川炭焼きグループ
富山県下新川郡朝日町笹川661
Tel 0765(82)2293
竹内 義明、山田聖隆

4. 商品紹介

- 4.1 木炭・竹炭
炭材木：ケヤキ・檜、孟宗竹
用途：燃料、除湿、ルームアクセサリーなど
- 4.2 木酢液
炭材木：ケヤキ・檜
用途：入浴材、防虫など
- 4.3 竹酢液
炭材木：孟宗竹
用途：入浴材、防虫など



笹川ミョウガ組合

笹川では、その時代に於いて一生懸命に土地に適する産業の発展のために努力して来ました。

山田の土手に桑を植えて蚕を飼った時代や、和紙の原料コウゾを植えていた時代、牛や豚を飼って共進会を開いていた時代、そして柿の産地としても永くその名を止めていました。

農業の機械化に対処出来なくなった山田は今、ほとんど元の原野や杉の植林地と化した。転作田の活用が始まった「みょうが」の栽培が根つき、「笹川みょうが」として品質の良さをなしています。



1. 栽培(生産)

1.1 これまでの活動内容

JAみな穂に出荷
上級品を出荷
漬物も人気有り

1.2 今後の取り組み

生産力強化
品質向上

2. 販売時期

生みょうが	7月中旬～8月中旬
みょうが味噌漬	11月下旬～12月末
みょうがの醤油漬	11月下旬～12月末
しば漬(姉妹品)	11月下旬～12月末

3. ご注文・問い合わせ先

笹川みょうが生産組合
富山県下新川郡朝日町笹川644
Tel 0765(83)1122
長井 悦子、小林 幸子

・みょうがの味噌漬



・みょうがの醤油漬

・しば漬(姉妹品)

原材料
みょうが、きゅうり、ナス、青じその実、梅干のしそ、しょうがなど

(内容量 各品とも 130g)

ふるさと農園

啓翁桜、実バラ、長いもの試験苗床 および あじさいの苗木作りなどがこの地(松の木)にて行われています。



友愛会 下呂温泉旅行

去る、3月23日～24日に笹川友愛会の下呂温泉旅行が行われました。東京笹川会より男子5名が参加致しました。女性の参加希望もおいででしたが東日本大震災の影響を鑑み参加を自粛して頂きました。

下呂温泉への途中、諏訪大社を見学しました。ここで、宮司様より笹川の諏訪神社との関わりの説明を受けたり、お参りをさせて頂きました。



下呂温泉での宴会では例年通り参加者による踊り、歌などで大いに盛り上がりました。宴会の最後に全員で盆踊りを踊りました。



笹川にUターンされた竹内弘さんの名司会でトップは、小林幹司さんの【あじさい太郎】襲名披露？



コトワザ伝説 その1

市平衛サの使い

昔、正覚寺に市平衛と言うとてもあわて者の出入り人がいた。ある日、お寺のゴンゲハンに「明日、富山まで飛脚に行ってくれ」と頼まれた。元より嫌と言う人ではない。快い返事をして家に帰った。あくる朝、空も白まぬなかに、手甲、脚絆に弁当と言う飛脚姿で出発した。そして昼ごろには富山(東別院)へと着いた。そこで用件をたそうとしたが、サテナにやら解らない？ それもその筈、用件を聞いてこなかった！！お腹も空くにサテ、昼飯でも弁当をひも解くとそれはなんと枕でないか。また脚絆も片方どこに落としたのか片足だけだった。シオンボリと家に帰ってみるとなんと片方の脚絆は、アマ(2階)へ上る梯子に履かせてあったとのこと。

助松サの道中

昔、助松と言う一風変わった人が居られて、道中するときはいつも人より一足先に出発して行き、先の茶屋で一服すって皆が来るのを待って居られた。やがて皆の衆がフウフウ言って追いつき、「アー疲れた、さて一服」と腰を下ろすかおろさぬさきに、「ヤーいらすたか、サア行かまいかー」と立ち上がり、トットと先に行く癖だったそうだ。だから今もこんな事を助松サの道中と言うそうな！

【編者のつぶやき】

この号より【笹川だより】を、【ささ郷だより】と名称を変更し第6号をお届けしました。【笹川】か、【ささ郷】かは、いろんな解釈があるかと思いますが編者の勝手な思いで変更致しましたことご容赦下さい。

【トピックス】では、由香里さんの【ナチュラルスイーツぼんぼん】と、伊左衛門のヨシエおばあちゃんの画展を訪ね、その内容の一端を掲載致しました。

特集で掲載しました特産品の生産活動が、順調に軌道にのりますようお願いいたします。

インターネットに【共生の里 ささ郷】と言う、ホームページも掲載しております。(こちらも名称を変更しました。)

<http://www.ubique.dynalias.com/~sasakawa/>

次号は2011年夏頃に発行を予定しております。(長井清武 記)